

GLOBALTIMES VOL.15

令和元年度 能勢高校 SGH 研究発表会を開催しました

2月15日(土)、能勢町浄るりシアター小ホールにて、「令和元年度 SGH 研究発表会」を開催しました。

本校は平成27年度に文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定され、「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材育成」をテーマに掲げて取り組んできました。5年目となる今年度は最終年度となり、「経済発展と自然破壊～マレーシア オイルパームプランテーションと森林破壊」をテーマに掲げ、多彩な講師の方々に指導いただきながら、マレーシアでは実態調査を行いました。グローバルな課題にローカルな視点を取り入れながら、課題研究に取り組んできました。また、SGH 継承事業であるGS(グローバルスタディー)にて、「能勢版シュタットベルケを考える～再生可能エネルギーと地方創生～」をテーマとして、能勢町と連携しドイツへ視察に行き、課題研究を進めてきました。

当日は町内外より多くの来場者があり、生徒の多様な課題研究発表の後、活発な質疑応答が行われました。この5年間、私たちの活動を支えていただいたすべての方々に感謝いたします。この課題研究は決してここで終わるものではなく、今後も能勢町との連携で、グローバルな研究活動として続いていきます。



●課題研究発表テーマ●

①3年 SGH 全国高校生フォーラム 課題研究発表《英語》

“Economic Development and Environmental Destruction～Oil Palm Plantation and Deforestation～”

3年 後大成、大城伊織

②2年 GS 課題探究重点講座 海外調査報告

「マレーシア サラワク州 海外調査報告」 2年 泉明日美、竹田莉央、中植航太、中尾帆介

③2年 GS 課題探究重点講座 課題研究発表

テーマ：『能勢版シュタットベルケを考える～再生可能エネルギーと地方創生～』

「間伐材の可能性」 2年 大西琉斗、森村虹海、泰江弥樹、吉本優志

「高校生の主張～ドイツから学ぶ未来の能勢～」 2年 泉明日美、竹田莉央、中植航太、中尾帆介

④3年 SG 重点分野講座・2年 GS 課題探究重点講座 課題研究発表

テーマ：『経済発展と自然破壊～マレーシアオイルパームプランテーションと森林破壊～』

「パームオイル需要の急増について」 2年 合田周平、長嶺汰輝、服部拓実、八木大樹

「熱帯雨林とオイルパームプランテーション～持続可能な生産とは～」

3年 後大成、大城伊織、齊藤大晟、中岡優仁

⑤3年 SG 重点分野講座 課題研究発表

「マレーシアのパームオイル産業と環境保全～日本での地方創生の観点から考察する～」 3年 大城伊織

⑥SGH・GS 活動の感想 発表者全員

*会場内では SGH・GS 取組みの展示も行いました。

●運営指導委員・来賓●

運営指導委員

伊井直比呂氏(大阪府立大学)、大石なつ美氏(一般社団法人千里文化財団)
片寄俊秀氏(NPO 法人みつや交流亭)、平岡光生氏(能勢町商工会)
平田篤州氏(一般社団法人檸檬新報)、森本克己氏(大阪府教育センター)
瀧上健一氏(大阪府教育センター)

大阪府教育庁

山川裕徳氏

来賓

上島一彦氏(大阪府議会議員)、原田りょう氏(大阪府議会議員)
上森一成氏(能勢町長)、長尾義和氏(能勢町議会議員)
加堂恵二氏(能勢町教育長)

町議会議員の皆さん



SGH を終えて今思うこと…

●SG 重点分野講座受講生徒 後 大成くん (3年生)

この3年間 SGH を受講し、自分にとっても自信ができました。海外実態調査でモンゴルとマレーシアへ行き、普通の高校生ではできないことを経験しました。諸外国で起こっている問題について考える機会が多く、グローバルが進む中で、どのような問題が起きているかを知ることができました。今では問題に対して、いろいろな視点で考えることができるようになりました。私は将来の夢である教師になるため、この春から進学します。そこで学んでいく中で、大きな問題にも直面するでしょう。そんな時は SGH で培った力を武器に、どんな壁にも立ち向かっていきたいです。



●SG 重点分野講座受講生徒 中岡 優仁くん (3年生)

私はこの3年間の SGH を通して、特に3年での海外実態調査へ行くことで、実際に現地を訪れ、知ることが大切だと思いました。普段使用しているパームオイルが実際にどのように作られているのか、どのような問題が起きているのかなど、実際に現地を訪れてみて、商品に対する消費者の意識が重要であることを知ることができました。今まで消費者の立場で考えたことはなかったので、これを今後活かしていけたらと思います。



●SG 重点分野講座受講生徒 齊藤 大晟くん (3年生)

SGH を3年間受講して、私は多くのことを学び、得ることができたと感じています。まず何より、行動力がいちばん身につきました。今までの自分は考えはしても、行動するまでには至りませんでした。しかし、SGH で海外の方々と交流、いろいろなことにチャレンジしたことで、行動力を身につけることができたのではないかと思います。SG で得た知識を生かし、将来、能勢町をより活性化していきたいと思います。



●SG 重点分野講座受講生徒 大城 伊織くん (3年生)

SGH を通し、グローバルな視点でローカルを見ることで、能勢町の魅力を発見しました。能勢町が消滅可能性都市であることを知った時には、この町に未来はあるのかと心配しました。私は2度にわたり海外実態調査に参加し、海外で起こっている問題を発見し、どのように解決しているかを調査しました。政府や NGO などの団体がその問題を解決するためにさまざまな解決策を示しており、そこから多くのアイデアを得ました。そこで得たアイデアを参考に地域の問題を考え研究することで、能勢町には多くの宝があって、魅力のある町だと郷土愛が深まりました。また、自分たちの研究を多くの方に聞いてもらい、賛同してもらうことで、自分たちの研究に自信を持つことができました。そして、課題研究を通して、能勢町に未来があると感じるすることができました。今後も SGH での経験を活かし、大学で学びを深め、さらに自分を高めたいと思います。そして、地域を変えるひとりになりたいです。



●講座と講師の紹介●

●GS 課題探究基礎講座(1年)

1年 11/21 (木) 『多様な文化を持った人々がともに暮らす地域を作るために』

●河合 大輔さん、野崎 ターラーさん (箕面市国際交流協会「MAFGA」)

90ヶ国、2700人の外国人が暮らす箕面市での、MAFGA の役割についてお話しがあり、また、インドと日本にルーツのあるターラーさんが「今のグローバルな時代に〇〇人が、という枠は知らない。世界は広い、自由にグローバルに活躍してほしい」とお話しされました。

1年 11/25 (月) 『池田の植木産業がランドスケープデザインの世界を拓く』

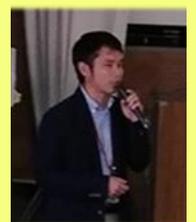
●中橋 文夫さん (公立鳥取環境大学教授)、溝口 正孝さん (NPO 法人みどりの郷幹事)、柳原 寿夫さん (スタジオ・アーバン・スペース・アート 代表取締役)

実際に造園を手掛ける溝口さんや柳原さんからは国内外で庭を手掛けた際の経験談を、中橋先生からは緑を絶やさぬような努力が必要だとお話しがありました。

●3年SG重点分野講座 ●2年プレ課題探究GS

11/13 (水) 『デザイン実習』

●イステッキ・ジハンギル さん (大阪大学 CO デザインセンター)



大阪大学の留学生（ドイツ、イギリス、ハンガリー、カナダ、ブラジル）・院生と一緒に、『問題を意識してデザインで社会に貢献する』をテーマに、能勢の特産品である栗から作った栗パウダーを使い、世界に発信できる何かを作ることを考える、グループワークを行いました。生徒からは多くのアイデアが出されました。

11/27（水）『マレーシアのパームオイルとRSPO』

●小辻昌平 さん（サラヤ(株) コンプライアンス推進担当課長）

マレーシアにおけるオイルパームプランテーションを理解するため、“森の住民”、“環境 NGO”、“消費財メーカー”、“プランテーションオーナー”のグループに分かれて、それぞれの立場になって考え、発表するステークホルダーゲームを行いました。



● 校外活動と国際交流 ●

■SGH全国高校生フォーラム in 東京 12月22日（日）

全国のSGHの生徒が集まる中、課題研究してきた内容をポスターにまとめ、英語で発表を行いました。

■ささゆり学園 能勢小学校にて教職員交流会 12月24日（火）

2年GS受講生徒4名が、能勢小学校の先生に向けて、「ドイツの再生可能エネルギーについて」発表しました。

■千里コラボ大学校講座 1月11日（土）

関西テレビニュース番組「報道ランナー」の本校の生徒活動を見て、ぜひ講座でプレゼンテーションをしてほしい、との依頼により実現しました。多くの一般市民が聴講する中で、ドイツ研修の研究発表を行いました。2時間にわたる講義でしたが、熱心に聞いていただきました。

■「福島の高校生が語る東日本大震災とドイツで学んだ再生可能エネルギー」報告会 2月1日（土）

大阪暁光高校で行われた「ドイツを訪問した福島の高校生による報告会」に2年GS受講生徒2名が参加しました。福島の高校生が福島の実情とドイツを訪れ学んだことの報告を、聞きました。また、その後の交流会では、大阪暁光高校生、福島の高校生と本校生徒が再生可能エネルギーについて意見を交換しました。

■豊中高校 SGH 発表会 2月5日（水）

2年生全員が豊中高校本校のSGH発表会に参加し、代表してGS受講生徒12名が3つのグループに分かれて、課題研究のポスター発表を行いました。

■ささゆり学園 能勢小学校5年生「環境授業」2月18日（火）

2年GS受講生徒4名が、能勢小学校5年生の社会科の環境授業に参加しました。「ドイツ 再生可能エネルギーとシュタットベルケ」について小学生に向けて、本校生徒が授業を行いました。



マレーシア サラワク州実態調査報告

1月17日（金）～1月19日（日）の3日間、2年GS課題探究講座受講生徒4名が、2年修学旅行に先駆け、マレーシア・ボルネオ島のサラワク州クチンで実態調査を行いました。テーマは昨年の夏のマレーシアでの実態調査に引き続き、「経済発展と自然破壊～プランテーションと森林破壊～」です。4名のうち1名は3年生といっしょに夏のマレーシア実態調査に参加しています。また、4名とも9月にはドイツへ視察に行っています。GS講座では、乾陽子氏（大阪教育大学准教授）の指導のもと、祖田亮二氏（大阪市立大学教授）からもアドバイスを受け、課題研究を進めています。

1月17日（金）、関西空港からマレーシア航空でクアラルンプールに到着。そこからボルネオ島北西部にあるクチン空港へ向かいました。

1月18日（土）、午前中は、ホテルのあるクチン市内から、Rayu Iban 村へ行きました。この村ではイバン族の子孫が、昔から「ロングハウス」と呼ばれる集合住宅で生活しています。村民のインシルさんは、約500本のオイルパームを所有する農家で、今回オイルパームについて話をしてくれました。日本で知っていた知識と現実との違いを知り、オイルパームを実際に作っている人の声が聞けたことは大変貴重な経験となりました。午後からはオランウータンなどの希少動物を保護している「セメンゴ野生動物リハビリセンター」を訪れました。

1月19日（日）、実態調査最終日。サラワク州で最古の自然公園、「パコ国立公園」を訪れました。公園へ行くにはボートに乗って上陸します。着く頃には大雨でしたが、世界ではここボルネオにしか生息しないテングザルに出会えるなど、実りのあるものでした。その後、修学旅行本隊に合流すべく、クチン空港へ向かいました。

実質2日間という短い時間でしたが、オイルパームプランテーションの現実を知り、ボルネオの大自然を満喫できた充実した実態調査となりました。



再び!! テレビ放映がありました!

1月11日(土)夕方、関西テレビの『FNN Live News it!』で、「再エネで地域活性化めざす 大阪・能勢の高校生」と題し、能勢高校・豊中高校能勢分校の取組みが紹介されました。ドイツでの視察や千里コラボ大学校での講義など、生徒たちが課題に一心に向き合う姿が紹介されました。



能勢高校 5年間のSGHの取組み

《平成27年度》

課題研究テーマ:「マレーシア 経済発展と自然破壊～木炭製造の中で消えゆく森林～」

海外実態調査場所: マレーシア ペラ州タイピン。日本向けに輸出される木炭製造により破壊されるマングローブ林の現地調査と保護政策を研究しました。

《平成28年度》

課題研究テーマ:「モンゴル 貧困とストリートチルドレン～子どもたちへの教育～」

海外実態調査場所: モンゴル セレンゲ県シャーマル。養蜂による貧困対策と村の地域創生をテーマに、能勢高校の養蜂授業を活かしモンゴルにおける養蜂の可能性を研究しました。

《平成29年度》

課題研究テーマ:「マレーシア 経済発展と自然破壊～エビ養殖によるマングローブ林の破壊とマングローブ林の植林～」

海外実態調査場所: マレーシア ペラ州イポー(マレー半島)とサラワク州クチン(ボルネオ島)。エビ養殖によるマングローブ林破壊、パームオイル産業と熱帯雨林伐採の問題を研究しました。

国内実態調査場所: 宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、大槌町。カキ養殖場でのフィールドワークを実施し、森と海のつながりを研究しました。

《平成30年度》

課題研究テーマ:「鳥取県での地方創生を能勢町に活かす」「モンゴル 貧困とストリートチルドレン～SDGsの視点からの自立した地域社会の構築と相互連携～」

海外実態調査場所: モンゴル ウランバートル。現地のNGO協力のもと、モンゴルの子どもたちと触れ合い、教育を通してモンゴルの地域活性化を研究しました。

国内実態調査場所: 鳥取県鳥取市、境港市。鳥取では県知事に直接インタビューを行い、地方創生の生の声を聞きました。

《令和元年度》

課題研究テーマ:「経済発展と自然破壊～マレーシア オイルパームプランテーションと森林破壊～」

海外実態調査場所: マレーシア サバ州コタキナバル。プランテーションや搾油工場など、パームオイル生産の現場を訪れ、調査をしました。

継承事業

《令和元年度》

課題研究テーマ:「能勢版シュタットベルケを考える～再生可能エネルギーと地方創生～」

海外実態調査場所: マレーシア サラワク州クチン、ドイツ NRW州ブリロン市。ドイツでは能勢町長および能勢町職員とともにシュタットベルケの視察、現地高校生とのワークショップなどを行いました。

SGH 継承事業～今後の取組み～

豊中高校能勢分校は、グローバルスタディー(GS)講座の取組みとしてSGH事業を継承しています。SGHで連携している地域や外部の団体、専門家、大学、企業などに引き続き協力いただき、SGHの流れを汲む講座を開講し、課題解決型学習を展開していきます。また、能勢町と能勢分校とが連携し、「再生可能エネルギー」を中心に地域活性化を図ることが、SGH継承事業の大きなテーマとなります。

来年度からも、グローバルな視点で世界の諸問題や地域課題に目を向け、課題探究に取り組んでいきます。また、校外での実践にも積極的に取り組み、小中高と連携をはかりながら能勢分校の活動を外部へ発信していきます。活動内容はHP、FB、ニュースレターなどに随時掲載していきます。